

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX 0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://www5.ocn.ne.jp/~jsohkink/>

第50回近畿産業衛生学会 (第3報)

主 催 日本産業衛生学会 近畿地方会
共 催 滋賀県医師会、滋賀産業保健推進センター、滋賀県産業医会
学会長 木村 隆(財団法人 近畿健康管理センター)

日 時	平成22年11月14日(日) 9時20分開始
会 場	ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター (滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号)
一 般 演 題	9:20~11:20 第1会場(2階 207会議室) 第2会場(2階 204会議室)
教 育 講 演	11:20~12:00 座長 中西一郎(東レ株式会社滋賀事業場) 「産業歯科保健への期待」 加藤 元(日本産業衛生学会産業歯科保健部会長)
幹 事 会	12:10~12:40
代 議 員 会	12:40~13:10
特 別 講 演	13:10~14:10 座長 大道 重夫(財団法人滋賀保健研究センター) 「産業保健における、一隅を照らす」 千日回峰行者 藤波源信 師
基 調 講 演	14:10~15:10 座長 埴田和史(滋賀医科大学衛生学) 「非正規雇用の現状」 脇田 滋(龍谷大学) 「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」
シンポジウム	15:10~17:00 座長 木村 隆(財団法人 近畿健康管理センター) 埴田和史(滋賀医科大学衛生学) 「小規模事業場と高齢者の特徴、健康診断データから」 寺田 哲也(財団法人 近畿健康管理センター) 「介護労働の現状」 北原照代(滋賀医科大学衛生学) 「女性が働きやすい職場と企業の対応」 志摩 梓(株式会社平和堂健康管理室)
懇 親 会	17:00~18:30 (ホテルピアザびわ湖)

学 会 開 催 の ご 挨 拶

木 村 隆

(財団法人 近畿健康管理センター)

リーマンショックから立ち上がりかけた矢先、円高株安に見舞われ、皆さまいかがお過ごしでしょうか。第50回近畿産業衛生学会を開催するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

さて、21世紀に入って早10年、予想されていたように我が国は人口減少社会に突入した上、円高により国内産業の空洞化が加速しています。昭和47年に施行された労働安全衛生法がその前提条件としていた青壮年男性中心、年功序列、終身雇用、労働現場としては、社内事業場といった状況は衰退し、女性の社会進出、高齢者雇用、成果主義、非正規雇用、社外労働が進行しています。そういった従来の労働安全衛生法の網の目から抜け落ちており、しかも今後の日本を支える上で重要な役割を果たす労働現場として、介護、小売り業など小規模な労働現場を理解しようという試みで、今回のテーマは大津市にある比叡山延暦寺の開祖、最

澄の教えにちなみ、「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」としました。

また、教育講演は本部の産業歯科保健部会長加藤元先生にお出でいただき、産業衛生学会に期待されている産業歯科保健活動について会員総てが理解できるよう企画いたしました。奮ってご参加下さい。

滋賀は奈良、京都に次いで、文化財の多い県です。会場のすぐ近くには木曾義仲と松尾芭蕉が眠っている義仲寺があり、少し足を伸ばせば、紫式部が源氏物語を執筆したと言われる石山寺があります。また、特別講演には比叡山延暦寺千日回峰行者藤波源信師にお願いしてあり、千日回峰行のとおきのお話も聞けると思います。更に懇親会は湖国三大祭りの一つ大津祭りのお囃子を生演奏で楽しんでいただくことにいたしました。会員の皆さまお誘い合わせの上、晩秋の湖都大津を大いに満喫して下さい。JRで大阪大津間は40分です。

第50回近畿産業衛生学会一般演題プログラム

一般演題

9:20~11:20

〈第1会場〉 207会議室

第1セッション 座長 寺澤 嘉之(株式会社ワコール)

(101) 業種別にみた特定健康診査結果の解析

○村上典子、山下淳、浪江弘美、寺田哲也、山道直樹、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆
(財団法人 近畿健康管理センター)

(102) 定期健康診断からみた飲酒習慣による肝疾患の基礎的検討

○中島明日香、北川ひとみ、森野薫、寺田哲也、富一弘、金沢裕一、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆 (財団法人 近畿健康管理センター)

(103) 初期臨床研修医における、睡眠と諸生活習慣の関連

○竹村重輝¹⁾、福元仁¹⁾、吉益光一¹⁾、上野雅巳²⁾、宮下和久¹⁾、
¹⁾ 和歌山県立医科大学医学部衛生学教室
²⁾ 和歌山県立医科大学附属病院卒後臨床研修センター

(104) 某総合大学の健診結果に基づく内臓脂肪量と腹囲基準による二次元区分における生活習慣の検討

○林江美¹⁾、中山紳¹⁾、今西将史¹⁾、大西圭以子¹⁾、広田千賀¹⁾、三井剛¹⁾、土手友太郎²⁾、河野公一¹⁾
¹⁾ 大阪医科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室
²⁾ 大阪医科大学 看護学部 公衆衛生学教室

第2セッション 座長 饗庭 昭彦(饗庭医院)

(105) メタボリックシンドロームの診断基準としての内臓脂肪係数の提案

○磯島康史、蜂尾哲生、金光文和、阪上皖庸、藤田正憲、宮田學、木村隆 (財団法人 近畿健康管理センター)

(106) 某総合大学の健診結果に基づく内臓脂肪量と腹囲基準による二次元区分における行動変容ステージおよび検査指標の検討

○中山紳¹⁾、林江美¹⁾、今西将大¹⁾、大西圭以子¹⁾、広田千賀¹⁾、三井剛¹⁾、土手友太郎²⁾、河野公一¹⁾
¹⁾ 大阪医科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室
²⁾ 大阪医科大学 看護学部 公衆衛生学教室

(107) 生活習慣改善意欲からみた健診結果の傾向について

○恵千恵子、寺田哲也、園伊知郎、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆 (財団法人 近畿健康管理センター)

(108) 特定保健指導2年目の傾向

○岩寄円香、高力容子、嵯峨裕子、服部忠、園伊知郎、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆 (財団法人 近畿健康管理センター)

〈第2会場〉 204会議室

第1セッション 座長 河津 雄一郎

(株式会社平和堂健康管理室)

(109) 塩化ユウロピウム投与ラットの尿中ユウロピウム排泄と腎機能変化

○臼田寛、大西圭以子、鈴木進一、林江美、河野公一
(大阪医科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室)

(110) ベトナムハノイ市における小児血中鉛のシミュレーションとリスク評価

○新添多聞¹⁾、原田浩二¹⁾、人見敏明¹⁾、渡辺孝男²⁾、Hung N.N³⁾、石川裕彦⁴⁾、小泉昭夫¹⁾
¹⁾ 京都大学大学院医学研究科、²⁾ 宮城教育大学、
³⁾ ハノイ医科大学、⁴⁾ 京都大学防災研究所

(111) アスベストの発がん性の知見集積に関する文献的考察

○車谷典男 (奈良県立医科大学・地域健康医学教室)

(112) 乗用型農業機械から曝露される全身振動

○辻村裕次、埜田和史、北原照代
(滋賀医科大学社会医学講座衛生学)

第2セッション 座長 北原 照代

(滋賀医科大学社会医学講座衛生学)

(113) 和歌山県下の林業従事者と振動障害および健康状態についての検討

○福元仁、竹村重輝、吉益光一、宮下和久
(和歌山県立医科大学医学部衛生学教室)

(114) 和歌山県における過重労働による健康障害防止対策の取り組み状況 (第2報)

○森岡郁晴^{1,2)}、宮下和久^{1,3)}、生田善太郎^{1,4)}、柏井洋臣¹⁾
¹⁾ 和歌山産業保健推進センター、²⁾ 和歌山医大・保健看護学部、³⁾ 和歌山医大・医・衛生、⁴⁾ 住友金属工業

(115) がん検診項目の有無による健康診断後精検率の検討

○藤吉奈央子^{1,2)}、原共乃¹⁾、門脇崇²⁾、岡村智教^{2,3)}、三浦克之²⁾

¹⁾ 近畿労働金庫健康管理センター、²⁾ 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門、³⁾ 国立循環器病研究センター病院 予防健診部

(116) 和歌山県における新型インフルエンザに対する企業の取り組み状況

○森岡郁晴^{1,2)}、宮下和久^{1,3)}、生田善太郎^{1,4)}、竹下達也^{1,5)}、柏井洋臣¹⁾

¹⁾ 和歌山産業保健推進センター、²⁾ 和歌山医大・保健看護学部、³⁾ 和歌山医大・医・衛生、⁴⁾ 住友金属工業、⁵⁾ 和歌山医大・医・公衆衛生

教育講演 大会議室 11:20 ~ 12:00

座長 中西 一郎 (東レ株式会社滋賀事業場)

「産業歯科への期待」

加藤 元 (日本産業衛生学会産業歯科保健部会長)

幹事会 305会議 12:10 ~ 12:40

代議員会 305会議室 12:40 ~ 13:10

特別講演 大会議室 13:10 ~ 14:10

座長 大道 重夫 (財団法人滋賀保健研究センター)

「産業保健における、一隅を照らす」

千日回峰行者 藤波 源信 師

基調講演 大会議室 14:10 ~ 15:10

座長 埜田和史 (滋賀医科大学社会医学講座衛生学)

「非正規雇用の現状」

脇田 滋 (龍谷大学法学部)

シンポジウム 大会議室 15:10 ~ 17:00

「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」

座長 木村 隆 (財団法人近畿健康管理センター)

埜田和史 (滋賀医科大学社会医学講座衛生学)

「小規模事業場と高齢者の特徴、健康診断データから」

寺田 哲也 (財団法人近畿健康管理センター)

「介護労働の現状」

北原 照代 (滋賀医科大学社会医学講座衛生学)

「女性が働きやすい職場と企業の対応」

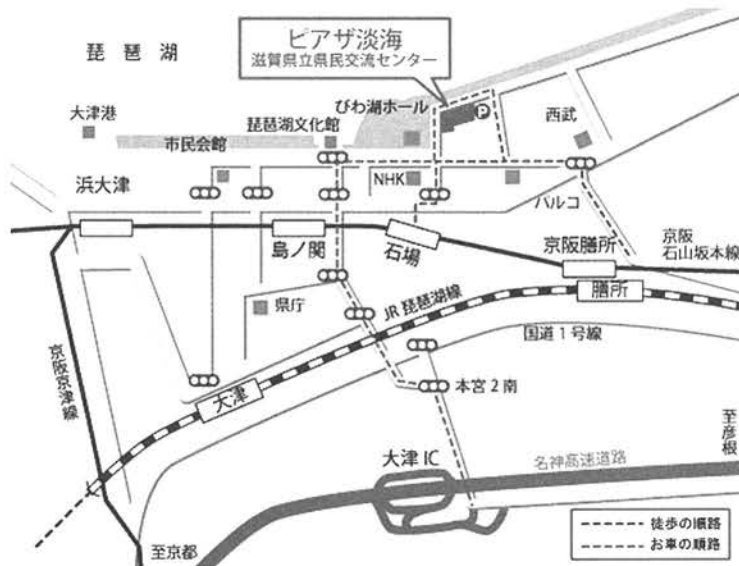
志摩 梓 (株式会社平和堂健康管理室)

懇親会 ホテルピアザびわ湖 6F クリスタルルーム 17:00~18:30



第50回近畿産業衛生学会

1. 会場へのアクセス



〒520-0801

滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号

ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）

会場への交通機関

JR膳所駅から徒歩12分（新快速は停車しませんので大津駅で乗り換えが必要です）

JR膳所駅にて京阪電車乗り換え、石場駅下車徒歩5分

JR大津駅からタクシー 10分

2. 参加手続

学会参加申し込みは、学会当日受付いたします。事前申し込みは必要ありません。学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員2000円です。懇親会費は3000円です。

3. 一般口演の演者の方へ

①演題11分（口演7分、質疑応答4分）の予定です。

②発表にはPower Pointをご使用ください。発表用ファイル（Windows Power Point 2003）は11月5日（金）17時までにE-mailで送信するか、またはCD-Rを事務局までお送りください。

4. 幹事会及び代議委員会

幹事会は12:10～、代議委員会は12:40～、305会議室で行います。

5. 懇親会

学会終了後、ホテルピアザびわ湖6Fで懇親会を行います。奮ってご参加ください（当日懇親会場で受け付けます）。

6. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

教育講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定3単位の予定です。ご希望の方は当日受付してください。

7. 産業看護職の方へ

教育講演・基礎講演・シンポジウムに関しては、日本産業衛生学会看護職継続教育（実力アップコース）単位認定を申請予定です。ご希望の方は当日受付してください。

8. 学会事務局（問い合わせ先）

財団法人近畿健康管理センター 第50回近畿産業衛生学会事務局

〒520-0812 大津市木下町10番10号 TEL: 077-525-3233(代) FAX: 077-525-3900

E-mail: kkc005@zai-kkc.or.jp

厚生労働大臣功績賞を 受賞して

関西労災病院

圓 藤 陽 子



この度、「平成22年度安全衛生に係る厚生労働大臣表彰功績賞」を受賞致しました。7月6日に本省からの推薦者9名とともに平野良雄労働基準局労働安全衛生部長より表彰状を拝受致しました。受賞理由は「安全衛生水準の向上発展に貢献をしたこと」となっており、私の場合は厚生労働省における「化学物質のリスク評価」に関連する委員会への参加が評価されたようです。

最初に参加致しました「少量製造・取扱いの規制等に係る小検討会」では、医療現場におけるホルムアルデヒドの規制について検討がなされました。近年、有害性と曝露程度によりリスクを定量化して環境管理を行う、いわゆるリスク管理が必要とされていますが、500kg以下の取り扱いの場合は、曝露調査対象リストから外されます。しかしながら、特定化学物質予防規則（特化則）などの規制段階では、製造や取扱量による適用除外がないので、リスク評価の検討対象外となった作業においても規制対象となる物質があります。医療現場におけるホルムアルデヒドの取り扱いがその典型的な事例で、ホルムアルデヒドは特化則の特定第2類物質に改訂されましたが、各医療現場における取扱量は非常に少量です。今回の検討により、安全衛生法施行令や特化則の一部改正に対応すべき項目が明白にされ、通達として公表されました。ホルムアルデヒドについては、シックハウス症候群の調査、医学部の解剖実習や労災病院における患者の診療などをテーマとしてきましたので、大変興味深く、勉強になるとともにやりがいのある仕事でした。今後も国のリスク評価において、お役に立てるように精進する所存です。

思えば大学卒業から40年近く、毒性実験から始まり産業中毒の相談まで、化学物質曝露による健康影響の評価に関する仕事に従事して参りました。今回、栄誉ある功績賞を拝受しましたことで、微力ながらも、少しは日本の産業衛生のお役に立っているのだと嬉しく思います。

6年間の東京勤務が終わり、この4月に関西に戻りました。これからも労働者のお役に立てよう努めますので、今後とも宜しく御願ひ致します。

『ICOHN&ACOHN Joint Conference 2010』 に参加して

産業看護部会 幹事

藤 吉 奈央子

蝉の声が鳴り止まない真夏の8月6日、ワークピア横浜で開催された産業衛生看護に関する国際学術集会『ICOHN&ACOHN Joint Conference 2010』に参加しました。

学会のメインテーマは「Global Challenges in Occupational Health Nursing - How Can We Contribute to Worker's Health, Safety and Quality of Working Life」でした。河野啓子先生の会長講演で、今後更なる産業看護職の質的向上が必要であり、そのため教育や看護研究を強化していく事と法的位置づけの重要性が示され、学会が幕開けしました。その後、人間工学に基づいた作業環境を整える重要性、コンピテンシー、ワーク・エンゲイジメントなど初日だけでも様々な側面から、まさに様々な国（アジア・ヨーロッパ諸国、アメリカ、南アフリカなど）からの報告がありました。特に今回は第3回国際産業看護と第2回アジア産業看護のジョイント学術集会でしたので、多くの国からの報告が聞けました。そんな中で、私が実感したのは各国それぞれが持つ背景により直面している問題に差があるのは当然のこととしても、働く人の安全や健康について考えていく中で、対象者の全体像を把握し産業看護職として何が出来るのかを考える情熱は万国共通だということです。このような学会参加者は大学関係者が多く、実際現場で仕事をしている看護職は少ないように思います。国際的なことに目を向けるよりも実際の業務が…となりそうですが、実際の内容は身近であり、さまざまな国の産業看護職またそれ以外の立場の方からの意見も聞くことが出来、日常の業務へのヒントになることも多々ありました（発表は英語でしたが、同時通訳もあり何とかあります）。初日しか参加出来ず後ろ髪を引かれる気持ちでしたが、本学会で受けた刺激に高揚し、充実感と『英語ってやっぱり勉強しないとあ』という思いに浸りながら会場を後にしました。

尚、本学会は3日間開催され、参加者は24カ国337名（4日間延べ参加者数1,009名）で、盛況に終わったようです。

産業医部会研修会報告

第15回
近畿産業医部会研修会を終えて

実行委員長

永田 秀敏

平成22年9月11日、大阪市立大学医学部学舎にて「雇用の多様化と安全衛生の課題」をテーマに第15回 近畿産業医部会研修会を開催しました（参加者155名）。



産業医部会長の山田誠二先生から挨拶をいただいた後、産業医科大学 副学長 森晃爾先生から、「働き方が多様化する中での産業保健サービスの課題」というテーマで基調講演を頂戴しました。講演では就業形態の多様化に伴う問題を、①「すべての働く人に産業保健サービスを！」という社会的な課題として捉える、②事業場の中での安全衛生管理体制の課題として捉える、という2つの議論の視点を示され、特に現場の産業医の視点となる②について掘り下げてお話しされました。

シンポジウム「構内で働く非正規社員の有害業務管理について」は大阪ガス（株）豊川彰博先生と筆者で座長を行い、三菱電機伊丹製作所 健康増進センター 萩原聡先生からは専属産業医の立場として、非正規社員による有害作業の現状と課題について、地区内の関係・協力会社の現状などをお話しいただきました。また財団法人 京都工場保健会 櫻木園子先生からは嘱託産業医の立場として、中小企業における非正規社員の安全衛生管理体制について、構内請負事業場の産業医としての立場からもお話しいただきました。更にパナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター 坂本史彦先生からは企業内労働衛生機関としての立場として、派遣や請負を解りやすくご説明された後、グループ共栄会社や派遣労働者の特殊健康診断についてお話しいただきました。筆者からは雇用形態ごとの安全衛生管理および責任体制について、雇用の多様化に対応した事業所内の包括的な安全衛生活動責任体制評価シート集（産業医科大学方式）を用いた活動を紹介しました。全体討議では元方事業者に選任された産業医として間接的に指導したり、健診医として保健指導するなど、まだまだ貢献が可能であることが確認できました。

最後に、研修会の準備・運営にご支援・ご協力いただいた関係者の皆様に深謝申し上げます。

看護部会研修会報告

産業看護部会研修を受講して

和歌山県警察本部

厚生課健康管理対策室

塩崎 万起



平成22年7月31日、東京工業大学医療保健学部産業保健実践研究センター地域・産業看護学 五十嵐千代先生を講師に「産業看護職の職務と役割～産業看護職に求められる役割～」と題しご講義を賜りました。先生は現在、内閣府自殺対策推進会議委員、厚生労働省職場のメンタルヘルス対策検討委員会委員など数多くの要職に就かれ、近年における産業保健の動向、トピックスなどについてもお話しくささいました。

とりわけ、深く印象に残ったことは、全国各地で起業家保健師が旗揚げし、保健師教育6年制時代を迎えようとしていることでした。確かに、時代は考える力とスキルを持った質の高い産業看護職を要請していることを確信しました。産業保健師のあるべき姿、それは組織が社会的責任を果たすため、健康管理の立場から組織運営について提言するなど高度な知識と技術を持った専門職が理想ということでしょう。

しかしながら、近年の職域においては、過重労働対策、自殺予防対策及び新型インフルエンザ対策など業務は増大の一途を辿り、一向に減ずる気配がありません。ややもすれば、今しなければならぬこと、できること、組織が求めることの狭間でジレンマに陥り、自身を見失いそうになる現実があります。このような中で、今回の研修は理想と現実を埋める、いわば複雑多様化・肥大化する日常業務に差し込んだ一条の光のようでした。

本来、労働衛生の目的は、人と仕事、健康と労働との調和を図ることにあります。産業看護職はそのコーディネーターとして機能する重責を担っています。プロとして、一組織人として「見て、繋いで、組織を動かし続ける」には相当のエネルギーを要します。組織の中に凜と位置し、組織を活性化すべく健康文化を発展させるという使命を果たすためには、今何をなすべきなのか。先生からは「専門的自律と継続的な質の保証」という道標をいただきました。課せられた責務に応えるためには、常に人格の涵養に努め、技術を磨き続ける。熱意と信念を持って歩み続ければ、必ず道は開かれる。そんな熱きメッセージが受講者の元に届けられました。平成22年夏の暑い日、改めて原点に立ち返り、新たな一歩を踏み出すよう背中を押されたような一日でした。

産業衛生学会専門医制度の 改正について

前専門医制度委員会委員長
パナソニック産業衛生科学センター

山田 誠 二

平成5年度に産業衛生学会専門医（14名）が誕生して18年たち、産業衛生専門医の数は、315名になりました。現在（平成22年7月）、専門医登録している人が152名、専門医を終えて指導医に移行した医師が140名になり、経過措置による指導医（114名）より多数になりました。現在、研修医登録をしている人が410名おられ、この中には研修期間が終了しているにも関わらず専門医試験を受験しない人が多数おられます。

試験は筆記試験と口頭試験の二種類を2日にわたって行いますので、中々難しい試験だとして敬遠される傾向がありました。身近な専門医制度にしたいと制度を改めることになりました。資格を「専攻医」と「専門医」の2つにわけます。まず産業衛生に必要な知識が一定以上あると学会が認定する「専攻医」を筆記試験で認定します。「専攻医」に認定された医師は、3年間指導医のもと研修指定施設で専門的知識とスキルを研修を行ったあと「専門医」試験を受験します。「専門医」試験は、主に口頭試験（一部筆記試験が入るかも知れませんが）で、合格すると「専門医」になります。その後5年間「専門医研修」をおこなったあと、指導医としてふさわしい実績を積んだ専門医は「指導医」になります。一度に筆記試験と口頭試験を行う現行の制度からすると、余裕をもって受験できるものだと思います。現在、専門制度委員会にプロジェクトチームを作って細部について検討しています。なお、現行の制度で研修中の研修医の先生は、現行の制度で受験できます。

産業看護部会では、定例研修会 <3回目>を開催予定です

平成20年度から、特定健康診査・特定保健指導制度が開始されました。内臓脂肪型肥満に着目し、リスクの重複がある対象者に対し、早期に介入し、行動変容につながる保健指導を行い、糖尿病等の有病者・予備群を減少させることが目的とされています。保健指導の成果（結果）が求められているのです。

「標準的な健診・保健指導プログラム（確定版）」には、保健指導を行うための技術には、必要な情報（健診結果、ライフスタイル、価値観、行動変容のステージ（準備状態）等）を収集するためのコミュニケーション技術、それに基づき支援方策を判断する技術、そして対象者が自らの生活行動の課題に気づき自らの行動目標を決定することを支援する技術等があり、具体的には、カウンセリング技術、アセスメント技術、コーチング技術、ティーチング技術、自己効力感を高める

技術、グループワークを支援する技術などがあると記述されています。

制度開始から2年が経過し3年目を迎え、特定保健指導を実施した成果は？有効な方法とは？行動変容につながる保健指導とは？等、これまでを振り返り、これからに役立つ研修会になればと考えています。

日時：平成23年2月26日（土） 14：30～17：00

会場：エルおおさか 本館

テーマ：“特定保健指導”スタートから3年

～実施と評価から、

効果的な特定保健指導を学ぶ～

講師：京都医療センター 臨床研修センター

予防医学研究室長 坂根 直樹 先生

産業衛生技術部会からのお知らせ

今年は民間企業が独自の安全運動をはじめて100年になります。技術部会では総会および研究会に向けて準備をしています。また有害性ではシックハウス症状とメンタルヘルスとの関連が注目を浴びており、これら有害物質環境とメンタルヘルスとの関係をメンタルヘルス分野の専門家と測定分野の専門家との合同研究会を模索しております。今回のニュースには詳細な内容と日時をお知らせします。

また技術部会への参加を希望される方は河合まで連絡ください。お待ちしております。

技術部会 河合 俊夫

産業衛生講座講習会 閉会のお知らせとお詫び 会員の皆さま

同講習会は1998年の初回開催から、熱心な諸先生方のご指導と参加を頂きまして、産業医の能力向上を目指して参りました。お陰さまで2007年に大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室が産業衛生講座講習会事務局を引き継ぎ、2008年には第33回の開催に至りました。しかしながら近年、参加者が急減し、運営の継続が極めて困難となって参りました。そこで次回を保留として2年間にわたり実行委員会一同、皆さまからの継続のご期待と社会的責任を負いながら、懸命に打開策を模索して参りました。さらに近畿地方会幹事会でも再三ご検討頂きましたが、残念ながら閉会以外の選択肢がないとの結論に達し、先日の幹事会で報告し、最終的に了承されました。このような不本意な結果になり、次回のご参加を予定されていた先生方、特に新規登録を既にいただいた先生方、には誠に申し訳なく存じております。私どもの尽力不足をお詫びいたしますとともに、近年の講習会状況の変貌をご推察いただき、ご容赦いただきますよう、宜しく申し上げます。

日本産業衛生学会 近畿地方会 産業衛生講座 実行委員会
車谷典男、河野公一、土手友太郎、西尾久英、日高秀樹、
宮下和久、山田誠二（五十音順）

文責）大阪医科大学 看護学部 土手 友太郎



私たちの職場 (19)

神戸常盤大学

保健科学部看護学科 松本 泉美

「いのち」を支えるスペシャリストを育てる

神戸の中心地である三宮からJR電車で西へ10分ほどの神戸市長田区の高台に神戸常盤大学のキャンパスがあります。最寄り駅からしばらく歩いて山を登るような急な坂を登りきると、大学のシンボルツリーでもあるメタセコイヤの並木が出迎えてくれます。

神戸常盤大学は2008年に開学した新しい大学ですが、4年制である保健科学部には医療検査学科と看護学科の2つの学科が、短期大学部には2年制の幼児教育学科と兵庫県では唯一の3年制の口腔保健学科と通信課程看護学科があります。その前身の短期大学は40年の歴史を持ち、私が所属する看護学科は、短期大学では2001年に開設され、すでに7期生を送り出した実績を持っています。

医療検査学科では臨床検査技師、看護学科では看護師 保健師 養護教諭、口腔保健学科では歯科衛生士といった医療看護系人材と幼児教育学科では保育士や幼稚園教諭という福祉教育系の人材を養成する大学です。それらの職業は、乳幼児から高齢者まであらゆる健康段階にある人々に関わることから、その人の生活の質 (Quality of Life) を尊重した「いのち」を心身の両面から支えるスペシャリストを育てることを目指しています。

小規模校ならではの教育体制

神戸常盤大学の在籍学生数は、通信課程看護学科の学生を含め約1400名で、非常勤講師を除く教職員数は約140名足らずのスマールカレッジですが、その規模を活かした少人数制教育を取り入れています。

クラス担任制の他、看護学科では、他の学科にはない「チュートリアル教育」を取り入れています。クラス担任とは別に、専任教員が学生数名を各学年毎に4年次まで縦断的に受け持ち、学習面や大学生活の相談にのりサポートします。また病院や地域などにおける臨地実習では、教員が担当する学生数は5人以内とするなど、学生一人ひとりに指導が行き届くような体制を整えています。

地域交流や国際交流を基盤とした実践者養成へ

現代は、大学進学率の上昇や高等学校における教育内容の多様化に伴い、学生の興味・関心や履修歴といった大学生の質も多様になってきています。しかしその一方で、時代の変化や社会の要請に対応した教育研究活動を行っていくことが大学に求められるようになり、いかに大学がその特色を発揮し、社会のニーズに応え

た人材養成機能の強化を図っていくのが問われています。

当学では、その基盤として5つのセンター活動を取り入れています。地元の長田区との地域交流や国際交流機構 (JICA)・神戸地区大学連盟との連携事業を推進する「エクステンションセンター」を中心として、地域に開かれた「口腔保健センター」、長田区を中心とした地域で学生が主体となって活動する「ボランティアセンター」、ゲノムサイエンスの研究機関である「ライフサイエンスセンター」、そして学生および教職員の健康を支援する「健康保健センター」です。その他にも阪神淡路大震災で被害の大きかった地元長田区での教訓を活かし、震災の記憶が少ない学生に災害を考えることによって、「いのち」に向き合える人を育てる危機対応実践力養成プログラムが、文部科学省が推進する大学教育推進プログラムのGP (Good Practice=優れた取組) に選定され、今年度よりスタートしています。

産業保健分野における課題が複雑化・深刻化している現代においては、より効果的な実践やその評価を適切に行うことが求められます。大学は、産学および地域連携として産業保健に従事される皆さんの実践活動を支援協力する身近な機関でもあります。大学を大いに実践活動や研究等に活用してください。一緒により良い産業保健を目指しましょう。



会員の声

「職業別喫煙率と禁煙」



和歌山県立医科大学
公衆衛生学教室

西尾 信宏

このところ歯科医師や看護師など医療職の喫煙あるいは禁煙指導状況について調査を行っています。この分野に手を染めるようになったきっかけは、歯科医師会と大阪府立成人病センターの先生方にご協力をいただき、歯科医師の肺がんについて調査を行ったことです。

ある集団のがん罹患や死亡が他の集団に比べて多いか、少ないかについて知るには、重要な交絡要因である喫煙の影響を調整するため、調査集団の喫煙率および比較する対照集団（多くの場合は一般住民です）の喫煙状況を把握することが求められます。

当初参考文献を調べて、そのデータを引用しようと考えていたのですが、当時は医療職などの職業集団の喫煙率についての報告が少なく、なかなか文献が集まりませんでした。そこで必要に迫られて少しずつ自分でも調べるようになった次第です。先にあげました男

性歯科医師の喫煙率は、1990年代半ばには医師よりは高かったが一般男性よりは低かったと推定しています。1980年代以前の歯科医師の喫煙状況についての報告は乏しく、未だ明らかではありません。ご存知の方がおられましたら是非お教えてください。

さて禁煙指導の効果については皆さんご存知のことと思います。米国国立がん研究所によると、喫煙の回避と禁煙はがんの発生率とがんによる死亡率を低下させますが、その根拠は1件のランダム化比較試験（The Lung health study）から得られています。この試験では介入群と非介入群を比較しているのですが、前者の禁煙率は21.7%、後者は5.4%です。つまり禁煙指導を行った群でも8割近くの方がたばこを続けていたのですが、それでも禁煙指導を行わなかった群よりがん発生率、死亡率とも低くなっていて、という驚くべき結果が得られています。詳しくはインターネット上の「がん情報サイト」でご覧いただけます。

私が勤める和歌山県では男性の肺がん死亡率47都道府県中1位、女性の大腸がん死亡率も1位（ともに2005年）という状況にあります。多くの方のご助言、ご支援をいただき、今後も微力ながら地域の福祉に貢献していきたいと思っております。



水・空気・食物

財順天厚生事業団
第一種作業環境測定士

保科 寛

ヒトの体に必要な三大要素に水・空気・食物がある。水については、井戸水や湧き水など天然水をそのまま使う人はごく少数で、一般には浄化・殺菌など人工の手を加えた上水道に頼っている。

空気については、普通は大気のままであるか、ビルなどは人工的な空調設備によって調節された空気を吸わざるを得ない。また大気そのものの汚染やシックハウス症候群なども問題になってきた。

食物については、加工食品の消費が増えるにつれて、食品添加物、残留農薬等の問題が浮上してきている。

このように、人工的な環境、人工的な物質に頼らねばならない時代であるから、健康・環境への関心が高まっている。

当事業団は「健康が全てではないが健康がなければ全てがない」という大前提に立ち、健診・作業環境活動を通じて、多くの人々のお役に立つことを念願しております。

当事業団の健診先事業場は中小企業（1事業場1～99人）が多く、健診事業場の86%を占め、作業環境測定事業場を同様規模の115事業場を実施している。近年、水・空気・食物のヒトへの関心が高まるなか健診の受診率は向上しましたが作業環境測定は作業場の設備の改善や適正な整備などを行い、年々減少しつつある。

いまや、これまでの大量生産、大量消費、大量破棄というライフスタイルが反省され、「持続可能な文明社会」の実現方法が模索されている。

私達、事業場の健康管理をお手伝いする1人として環境問題に関心をもって頂きたいと願うものである。

会員の声



「最後の晚餐」が もたらしたもの

パナソニック
産業衛生科学センター
實森 千香子

松下幸之助さんは、飲み屋のママの「松下って素敵な会社ネ。こんな会社が全国にあったらみんな喜ぶのに…」の言葉により全国展開をし始めた、との説があります。きっかけは何にしろ、全国各地にパナソニックの事業場が出来たわけです。その後、家電の組み立て工程で頸肩腕症候群が発症し、これに心を痛められた幸之助さんは、従業員の健康を守るためには有営業務を中心とした特殊健診を専門で扱う部署が企業内に必要と判断されました。そこで創設されたのが、私が勤務する産業衛生科学センターです。

パナソニックの各事業場の立地と業務内容からおのずと分かることですが、私は全国の事業場を飛び回る日々を送っています。私は基本的にインドア派で旅行も好きではありませんが、仕事でいろんな場所に行く

のはおもしろくて、楽しいな～楽しいな～と言っているうちに3年が過ぎていました。そして、気がついたら入社時より20キロも体重が増えていました。体重増加の原因は出張先での食べすぎです。私は出張に行くたびに「次にここに来るのはいつになるのだろう…。今回が最初で最後かもしれない…」と妙な旅情にそそられて、最後の晚餐！とばかりに日々食欲の限りを尽くしていました。しかし、最後の晚餐になる気配もなく、職場巡視で息が切れるようになったので、減量を開始しました。

最初はこっそりと減量をしていましたが、「さねもりセンセ、最近一緒にご飯食べないし、元気がないみたい」と心配されるようになりました。そこで、事情を話したところ今度は「信じらんない!」「それはやばい」と別の意味で心配されるようになりました。所長の山田先生にまで「あんた、そんなに太ってなかったろ。いい加減、やせろ!」と指導されて、あとがない雰囲気です。職場スタッフの厳しい視線と愛のムチにより、減量は順調に続いているのですが、「出張が多いから太る」と言う従業員に堂々と減量指導できるようになるのはまだまだ先です。



「掃除をして」

パナソニック(株)ホームアプライアンス社
奈良健康管理室
矢野 美智代

「夏休みは旅行？帰省？」と友人達に聞かれたが、10日間ほぼずっと自宅で過ごした。引越して5年、物置と化した部屋を中心に片付けや大掃除をしていた。貧乏性のため、ふだん必要がなくても「いつか役に立つかもしれない」「まだ使えそう」なものは「とりあえず置いておこう」整理整頓が苦手なこともあり、すぐにものがあふれてしまうのでこの度は、思い切って片付けることにした。

普段の生活に支障のないもの、2年以上触っていないもの、書籍、衣類、靴、カバン、紙袋、包装紙。色々なものを片付けた。とにかく捨てた。飛び降りてみると、清水の舞台は、そんなに高くなかったように思う。

それでもやはり捨てられないものもある。学生の頃の教科書やノートなど。インターネットで簡単に情報が入手できる今、読み返すことはあまりないと思うものの、手に取ると、色々なことが思い出される。その中に「カナダの自動車教習所・運転の5原則」というメモを見つけた。

- 1 See far. (遠くを見る。遠くに視点を置くと、多くのものが見える。長期的展望を持つ。)
- 2 See wide. (広く見る。広く見ないとバランスを欠いてしまう。周囲との連携を保つ。)
- 3 Don't stare. (凝視しない。他のものが見えなくなるほど、凝視をしない。ひとつのことに捉われ過ぎない。)
- 4 Be sure to be seen. (見られていることを意識する。自分のやっていることを周囲に理解してもらうように努める。)
- 5 Keep a way out. (車間距離をとる。あそび、余裕を持つ。)

卒業を間近に控えた頃の講義だったと思う。担当教官は、社会人としての心構えを運転になぞらえて伝えて下さった。果たして自分はどうかだろうか。メモを見入ってしまった。

事業部は大きな変化の時期を迎え、それに伴い私たちの働く環境も大きく変わっている。今後も引き続き変化が予想される。もしかしたら、その中で無意識的にこれまでのことをちょっと整理して、次への準備をしたいという思いが掃除に駆り立てたのかもしれないなどと思ったりもしている。

掃除をして少しだけ広がった空間に、新しい情報・知識・人との出会が入っていくといいなと思っている。その時には、5原則を思い出そうと思う。

幹事会議事録

2010年度第2回定例幹事会

日時：2010年9月6日(月) 18:00~20:30

場所：大阪市立大学医学部学舎 18階会議室

出席：車谷・清田・岡田章・廣部・大脇・山田・廣田・植本・森岡・河合・夏日・宮上・圓藤・木村・久保田・河野(代理)・佐野・中西・日高・篠岡・土手・宮下・竹村(順不同・敬称略)

欠席：小泉・西尾・埤田・上田・鮫島・藤吉(順不同・敬称略)

1. 地方会ホームページの再開

中西幹事(地方会ホームページ等見直し検討委員会委員長・地方会ニュース担当幹事)から、昨年来から進めてきた地方会ホームページについて最終案の提示があり、論議の結果、以下のように決定した。

- ①新しい地方会HPは、費用と安全面の観点から実績のあるumin(大学病院医療情報ネットワーク)のサーバーを使用する。無料でレンタルできる。
- ②定期的な管理は(株)シスコ(滋賀県大津市)に委託する。3か月ごとに5万円(年間20万円)の経費。ただし、初期立ち上げに別途20万円程度必要。
- ③当面、中西幹事が中心になって、3部会・研究会・地方会事務局からのHP掲載記事の調整を図る。
- ④地方会ニュースは従来と同様に年4回、同じ分量のものを発行する。
- ⑤HPには、地方会の基本情報と研修会など速報性を要するものを優先して掲載する(地方会ニュースとの重複は可)。
- ⑥契約期間は学会の会計年度に合わせて3月1日から翌2月末日の1年単位とする。
- ⑦11月に開催される近畿地方会の時までにHPを再開できるように作業を進める。

2. 日本産業衛生学会公益社団法人(案)について

岡田理事から、現在、本部が進めている公益法人化についての説明があり、それを受けて活発な質疑応答があった。その中で、公益法人の最高意志決定機関である総会の構成員が、現行の代議員数の人数でも可能であること、また委任状も認められる見通しであることから、当初懸念していた公益法人化した場合の問題点がなくなることなども紹介された。来年の産業衛生学会総会で最終結論を出すことが予定されているので、さらに慎重に情報収集を進めるとともに、地方会幹事会でも必要に応じて意見交換をすることとなった。

3. 産業衛生講座講習会の終了について

同実行委員会の事務局の土手幹事から、1998年8月から過去33回にわたって継続してきた産業衛生講座講習会を、実行委員会の結論として、終了させることの報告があった。立ち上げた当初と状況は大きく変化し、産業医研修は様々な場で実施されるようになったこと、その点で、学会としての先駆的な役割は十分果たしたなどといった意見表明が他の幹事からあった。剰余金168,215円は地方会事務局に寄付し、過去の講習会資料の全てを地方会事務局(奈良医大)で保管することを了承した。この報告を受けて、学会の社会的役割としての、地方会主催の新たな研修会の必要性、あり方、方向性について意見交換があった。重要な課題であるので、今後、何度か幹事会で論議することになった。

4. 選挙管理委員会からの報告

土手委員長から、①有権者は1094人、②選出されるべき代議員の割り当て数は116人、③代議員候補者・監事・地方会長の推薦を現在受け付けていること、④投票は9/24から10/7を予定していること、の報告があった。

5. 第50回近畿産業衛生学会(2010年滋賀)の進捗状況

木村会長から、準備作業は順調に進んでいること、演題募集中であること、抄録の締め切りは10月15日であることの報告があった。

6. 第51回近畿産業衛生学会(2011年奈良)の準備状況

夏日会長から、来年2011年11月5日(土)に奈良県文化会館で開催することの報告があった。

7. 地方会ニュースの発行状況について(山田理事)

予定通り発行できているとの報告があった。

8. 第3回幹事会と第2回代議員会の日程確認

11月14日に開催される近畿地方会総会に合わせて開催することを確認した。



会員の異動 (敬称略)

〈新入会員〉

酒井正則 大阪府管工事業健保組合
 針田伸子 大阪市立大学環境衛生学教室
 古川利佳 (株)エクセディ
 川井美佳 (株)村田製作所
 杉本貴昭 兵庫医科大学
 恵阪由美 岩谷産業健保組合
 倉橋知英 大阪大学医学部附属病院
 大原朋恵 パナソニック(株)本社健康管理室
 小原昭子 パナソニック健保組合
 新田亜貴子 パナソニック健保組合
 山崎友紀 パナソニック健保組合
 東堂龍平 国立病院機構大阪医療センター
 吉岡絹子 大和証券グループ総合健康開発センター
 山口 歩 関西電力(株)大阪北支店
 山口満喜子 西日本旅客鉄道(株)健康増進センター
 土井晶子 神戸学院大学人文学部人間心理学科
 山崎ひろみ 井上病院附属診療所
 新楽史郎 西大寺こころのクリニック

〈再入会員〉

和田ゆき恵 パナソニック(株)エナジー社健康管理室
 池田久美子
 縄本ひとみ 京都教育大学
 辻上周治
 白川晶一
 田中志津香 エクソンモービル(有)医務産業衛生部

編集後記

小生、はじめて地方会ニュース編集事務局をさせていただきました。何もわからないまま取り組んで、もうすぐ2年になろうとしています。いつも皆様に助けられてニュースを発行しております。今後とも地方会ニュースをよろしくお願い申し上げます。(中西一郎)

編集委員 (五十音順)

河合 俊夫	木村 隆
久保田昌詞	中西 一郎(広報事務局)
廣部 一彦	藤岡 滋典
藤吉奈央子	宮下 和久
山田 誠二(編集総括責任)	



POCARI SWEAT 30th Anniversary

大塚製薬株式会社大阪支店
 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
 TEL:06-6441-6532



ポカリスエット900ml
 メーカー希望小売価格
 168円(税込)

24時間、900ml。

私たちの皮膚や呼吸から、絶えず蒸発している水分量は1日で900ml。1本のPURE900で、スムーズに補えます。

あなたの生活にジャストサイズ。

- 多すぎない、少なすぎない、900ml。
- 冷蔵庫のポケットに収まりやすい。
- 少人数の家族にも、ちょうどいい。

水よりも、
 ヒトの身体に
 近い水。

PURE
 900